

□海外文献紹介□

薬物的括約筋拡張後の無傷乳頭 を通して行う内視鏡的総胆管結 石除去術

Endoscopic removal of common bile duct stones through the intact papilla after medical sphincter dilatation: *Staritz M, Porrala Y, et al* (Gastroenterology 88: 1807-1811, 1985)

総胆管遺残結石に対する外科的治療は疾病率、死亡率が高く、溶解療法は時間がかかるうえに結石の組成により成果が異なるという問題があり、この10年間に視鏡的結石除去術が注目を集めた。しかし、通常の方法は乳頭切開術を必要とし、これには約8%の重篤な合併症と1~2%の死亡率を伴うことが報告されている。最近、バルーンカテーテルを用いた内視鏡的乳頭拡張術が導入さ

れ、この方法によると乳頭切開術を必要とせず、それによる合併症を避けることができるが、特別な器具と高度な技術を要する。そこで、著者らは乳頭切開術によらず、ニトログリセリン (GTN と略) の Oddi 筋拡張作用を応用し、胆管結石の内視鏡的治療を試みた。GTN は舌下に投与されると1~2分後に血中濃度が最高となり、半減期は約5分であることが既に示されている。

対象23例のうち、21例の総数32個の総胆管結石が、GTN 投与下に拡張した乳頭を通してバスケットカテーテルにより除去された。結石の径は6~12 mmで、平均径は8.7 mmであった。GTN はスプレーによる舌下投与で20例に1.2 mg、1例には追加投与を行い総量3.6 mg 使用された。2例はGTN を3.6 mg 使用してもバスケットカテーテルが乳

頭を通過せず、この研究から除外され、乳頭切開術が施行された。結石32個のうち30個はバスケットカテーテルにより容易に除去され、2個(径10 mm と12 mm)は牽引の際患者が疼痛を訴えたので除去の前に機械的に粉砕する必要があった。1例に結石除去後乳頭開口部から少量の出血を認めた以外、術中、術後の合併症は認められず、経時的なマノメトリー法によると、乳頭機能障害も認められなかった。またGTN による副作用は3例の頭痛のみであった。したがって、この安全かつ簡便で、しかも乳頭括約筋機能を温存する結石除去術は、小~中サイズの総胆管結石の治療法として優れたものである。

(愛知県がんセンター第1内科

種広健治 抄)